

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

智頭町長 金 兒 英 夫

市町村名 (市町村コード)	智頭町 (313289)
地域名 (地域内農業集落名)	真鹿野地区 (真鹿野集落)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年2月27日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

令和4年5月実施の農業・農地に関するアンケート調査によると、当地区の農業者の平均年齢は68.3歳であり、町平均の70歳と比べると低いものの、農業者の高齢化による将来への不安は大きい。農業者のおよそ半数は、後継者のめどが立っているものの、地域全体では、労働力不足、後継者不足は課題となっている。機械を含む設備の老朽化が進み、更新等が経営の負担となっている。農業経営は赤字であり、担い手確保の阻害要因となっている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

集落自体が成り立たなくなる(限界集落)可能性もあるため、守るべき農地を明確化していく。農地維持、担い手確保のため、収益性の高い作物を作る。水稻の作付を行わない農地ではそばを作り、販路の確保もあわせて検討する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	20.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	14.7 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

智頭町大字真鹿野(真鹿野集落)地内で、小規模な畑を除き、現在耕作が行われている比較的条件の良い農用地とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針 地域での話し合いを継続して検討する。
(2)農地中間管理機構の活用方針 全て無償で管理していく。
(3)基盤整備事業への取組方針 必要に応じて検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針 地域での話し合いを継続して検討する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針 活用できる事業者があれば検討する。

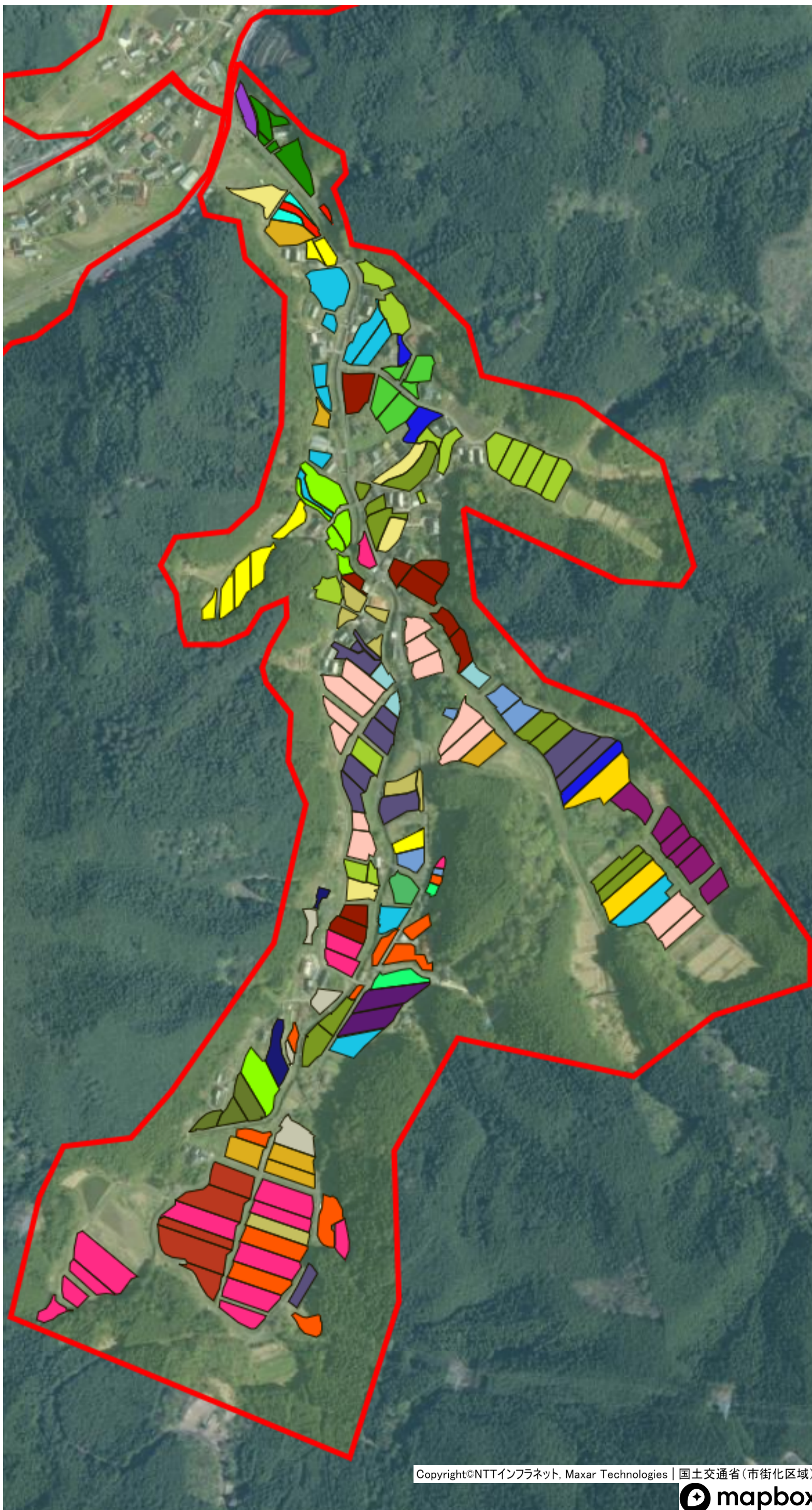
以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

--

真鹿野地区目標地図



目標地図(確定)

- A
- B
- C
- D
- E
- F
- G
- H
- I
- J
- K
- L
- M
- N
- O
- P
- Q
- R
- S
- T
- U
- V
- W
- X
- Y
- Z
- AA
- AB
- AC
- AD